



日本医療機能評価機構  
認定番号 JC1452号

http://machida-city-hospital-tokyo.jp/



# まちだ市民病院

クォーターリー (季刊)

## Dr's message

**五十嵐 尚志** 呼吸器内科担当部長にきく  
タバコを続けると寿命が10年短くなります。

### ◎呼吸器内科の体制は？

**A** 私は平成18年に当時の上司や同僚とともに来ました。呼吸器内科の医師は最大7人いましたが、現在は4人です。それぞれ感染症やアレルギーの専門医の資格を持っていて、力があります。信頼できる少数精鋭のスタッフです。

### ◎数ある診療科の中で呼吸器内科を選んだ理由は？

**A** 呼吸器系疾患は種類が豊富で、CT等の検査をしても病変が分かりにくいものが多い。分からないものを患者さんと話しながら頭の中で想像し、治療のプランを立てる。非常に難しいですけど、そこにやりがいを感じました。

### ◎市民病院で多い疾患は？

**A** 肺がん、COPD (慢性閉塞性

肺疾患)、ぜんそく、肺炎などです。地域の診療所からの紹介患者も多いです。

も多いです。

### ◎肺がんの死亡率は胃がんを抜いて1位になりました。

**A** 肺がんは症状に乏しく、発見された時には7割が手術できない状態です。進行したがんに対しては抗がん剤による化学療法を行っています。分子標的薬など新たな薬も出てきていますが、肺がんの治療はまだ過渡期の段階です。患者一人一人に合わせたオーダーメイド治療が少しずつ進歩しています。

### ◎COPDはあまり聞きなじみのない病名ですね。

**A** 国内の認知度は十数%程度といわれています。国を挙げて認知度の向上に取り組んでおり、テレビCM等

でもPRしています。主にタバコが原因の疾患で患者数は年々増えています。近年喫煙率は減少傾向ですが、COPDは喫煙者が高齢になってから症状が出てくる疾患なのでこれからも増えるでしょう。禁煙が進行を抑える唯一の方法です。

### ◎呼吸器内科の医師には、やはり喫煙者は少ないのでしょうか？

**A** 他の診療科に比べて少ないでしょう。日本呼吸器学会の専門医になるには、非喫煙者であることが要件の一つなんです。個別の確認はできないと思いますが(笑)

### ◎先生は治験(薬の臨床試験)にも積極的に取り組んでいます。

**A** 誰かがやらないといけないですからね。全ての薬は安全性や効果を検証する必要があります。患者さんも自分が役に立っているのならば協力的な方が多いです。当院には治験支援室があり、薬の正しい使用法なども併せて指導しています。

### ◎感染対策室長も兼務ですね。

**A** 感染症以外で入院された患者さんが院内感染しないように予防しています。効果が分かりづらい仕事ですが、院内感染しないのが当たり前なので、プレッシャーもあります。それだけ大切な仕事です。

### ◎休日の息抜きには何を？

**A** 学生時代からテニスを続けています。今も週一回スクールに通っています。以前より打てなくなった自分にストレスを感じる時があります(笑)

## 病気ガイド

長引く咳(せき)について

呼吸器内科担当部長

五十嵐 尚志

「自分は結核や肺癌ではないだろうか」とか「咳で夜眠れない」、「人と話すのに咳が出て困る」などといった症状で開業医から紹介され、市民病院を受診される患者さんは多いです。咳が長引くと、患者さんだけでなく、開業医も心配になり受診を勧めることがあります。そのようなき専門医はどう対処するのでしょうか。

咳は感冒(かぜ)の他ほとんどの呼吸器疾患や心不全でもみられますが、その多くは診察や胸部X線など簡単な検査で概ね診断がつかます。2ヶ月も咳が続くにもかかわらず胸部X線などで異常がない場合には「慢性咳嗽(まんせいがいそう)」といわれ、ほとんどが咳喘息などのアレルギー性咳、喫煙を主因とした慢性気管支炎、後鼻漏、逆流性食道炎、一部の薬剤が原因であるとかわかっていきます。

長引く咳の原因が結核や肺癌などである可能性は1%程度と低いですが、咳が2〜3週間続く患者さんには胸部X線検査を勧めています。過度に心配することはありませんが、咳が長引いて改善しない場合には一度かかりつけ医を受診し相談されてはいかがでしょうか。



Dr. Hisashi Igarashi

町田市民病院  
呼吸器内科担当部長  
**五十嵐 尚志** (いがらし ひさし)

### Profile

杏林大学 卒  
2006年4月から町田市民病院勤務  
2012年4月から現職 感染対策室長を兼務